

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 3年 12月 3日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3473600371		
法人名	社会福祉法人 三篠会		
事業所名	グループホーム甲田		
所在地	広島県安芸高田市甲田町下小原3363番地 (電話) 0826-45-7777		
自己評価作成日	令和3年11月8日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3473600371-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3473600371-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	令和3年11月26日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

利用者一人ひとりが、「自分らしさ」を活かして生活できるように本人及び家族の希望を聞き、個々の思いに寄り添いながら落ち着いて楽しい生活が送れるよう支援している。コロナ禍により思うようには運ばないが、グループホーム内だけでなく地域の方との交流を通し絆を深めながら、地域住民としての役割を担い張りのある生活が送れるように支援していくことを目指している。感染対策に配慮しながら、可能な限り家族、地域とのかかわりが持てるよう継続的に支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

最近の特徴的な取組みとして第一に「馴染みの人や場との関係継続の支援」に深化がある。事業所は「気軽に訪問できる事業所作り」を重視するが、現在はコロナ禍による面会制限がある中、家族の要望に基づき利用者とタブレットでのリモート面会、今年10月から玄関でマスク着用して短時間の面会を開始し、家族との再会で不穏な利用者が落ち着いた経緯がある。第二に「就業環境の整備」「職員を育てる取組み」に深化がある。法人全体として取り組んでいるノーリフティングケア（抱えない介護）に事業所も取り組み、腰痛予防等、労働環境の改善・業務の効率化によりケアに結び付ける目的で「笑笑ケア会議」で褥瘡対応・福祉用具の選定・生活動作方法等、他部署の協力も仰ぎながら現場での推進方法を検討している。又、来年度はケアを受ける側と介護側との良好な関係作りに向けて認知症ケア技法「ユマニチュード」導入を目指している。

自己評価	外部評価	項目( A棟 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	事業所の理念、部署目標に基づき利用者処遇や職員のケアに対する意識統一を図る。またミーティングや申し送り時に必ず確認するようにしている。	法人理念を事業所理念とし、その実現に向けて施設全体及び部署（事業所）で年間目標を策定し年度末に検証している。職員も「目標記入シート」で半期毎の個人目標を設定し個人面談にて目標達成度を検証している。各職員が所持するそのシートには施設・部署目標も記載・共有されている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	これまでは地域とのつながりとして、施設主導の祭りの開催や地域の祭りへの参加があったが、今年もコロナの影響で中止となっている。	現在はコロナ禍により近隣ドライブ等以外は自粛中だが、本来は日頃から買い物や地域振興会の行事にも参加していた。施設の甲田たのしみん祭等に地域住民やボランティアを受け入れる相互交流や地域の保育園児と世代間交流もある。今は家族の面会や訪問歯科等の来訪がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	コロナの影響により運営推進会議が中止となっていたが、今後開催を予定しており、これまで同様に地域の方にも参加していただき情報共有を継続する。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	年4回開催している。 今年度はコロナの影響で書面をもっての報告となっている。事業報告や検討内容と合わせて、日々の様子や取り組み等も公開している。	運営推進会議は市の条例で3カ月毎の開催とされるが、コロナ禍のため昨年11月に家族・民生委員の参加を得た外は職員のみで開催となっている。なお欠席の関係者には書面による事前照会となっており、情報共有のため議事録を送付している。特に意見等はないが、地域情報の提供がある。	
5	4	○市町との連携  市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	行政担当者とは運営推進会議や書面での報告にて事業所の実績やサービスの取り組み等、定期的に情報交換を行い、連携や質の向上に努めている。	地域包括支援センター・市担当課とは運営推進会議の事前照会（配布の会議資料）で情報を共有している。会議の開催報告書は相談員が持参又は郵送しており、市担当者とは日頃から相談や報告、行政主催の集団指導研修会へのオンライン参加等で協力関係の構築を図っている。	

自己評価	外部評価	項目( A棟 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p><b>○身体拘束をしないケアの実践</b></p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束・玄関の施錠は行っていない。</p>	<p>研修会等を通して職員は「拘束をしない」必要性を認識し具体的なケアの中で実践を重ねている。施設の拘束廃止委員会で各事業所の拘束状況を毎月検証し、運営推進会議の中で拘束例はない旨を公開している。玄関は施錠せず人感センサーを設置している。</p>	
7		<p><b>○虐待の防止の徹底</b></p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>定期的に施設内で法定研修が開催されることで、普段から職員が虐待について勉強し、個々の意識を高め、利用者が安心して生活できるよう心掛けている。</p>		
8		<p><b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b></p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>地域権利擁護事業や成年後見人制度について外部研修で学ぶ機会があり、研修資料等は閲覧できるようファイルしてある。また、必要な場合には支援できる体制にある。</p>		
9		<p><b>○契約に関する説明と納得</b></p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>入退所時に面接や調査を行い、説明・納得の上、同意を得ている。また、サービスの内容の変更点（加算等）は運営推進会議の場でも説明を行っている。</p>		
10	6	<p><b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b></p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>運営推進会議や家族会の開催が難しい時期ではあったが、ケアプランの意向確認や面会の時に話を聞く機会を設けている。また、要望や苦情受付の連絡先を掲示している。</p>	<p>最近までコロナ禍で面会自粛だったが家族とは電話連絡・介護計画更新時・タブレットでのリモート面会等で意見・要望を把握し迅速な対応に努めている。以前は年4回の家族会兼運営推進会議もその機会であった。家族の要望で面会も拡大し、10月から玄関での短時間の面会も可能になった。</p>	

自己評価	外部評価	項目( A棟 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員面談等、定期的に意見を聞く機会を設けており、その機会以外でも随時対応している。	定期的な代表者会議・ユニット会議・各種委員会、申し送り、管理者他との年1～2回又は随時の個別面談等で意見を聞く機会を設け、介護方法・業務上の提案等に対する支援体制を採っている。職員提案によりノーリフティングケア促進のため併設施設の福祉用具を活用した例がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	年2回の業務評価において面接を行い、職員個々の意見を聞く機会を設けている。その中で個人目標を設定し、各自の意欲向上を図るとともに意見交換を行っている。その他、法人全体としてノーリフティングケアを推奨し、腰痛予防に努める等、職員が働きやすい環境を目指している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員一人ひとりの能力を把握し、スキルアップできるよう、法人内外への研修参加の機会を設けている。新人職員についてはOJTによる育成も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	関連事業所と研修会や交換実習等を通して、交流や意見交換をし、業務改善に努めている。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	利用開始前に本人と家族、職員を含めた事前面接を行い、要望や不安な点を聞く機会を設けている。利用開始後も本人の訴えに応じて傾聴し、思いを汲み取り納得していただけるよう心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目( A棟 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	利用開始前の事前面接で、本人・家族と話し合いの場を設けることで不安が取り除けるよう努めている。利用開始後も運営推進会議や家族会を通し、話を聞き思いを知る努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	専門職が連携を取りながら、本人や家族と情報交換を行い、本人の希望に添えるよう努力している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	毎日の生活において、本人の生活歴を通して個人個人に合った役割や得意な分野を見出すことでそれぞれの思いが尊重できるよう心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	運営推進会議や家族会を定期的に開催することで、利用者の近況報告を行っている。外出等に関しては家族の理解を得ながら関係を保っている。コロナの影響で家族を施設に招くことが困難だった今年は、電話での近況報告と合わせて写真入りのハガキを送付し、施設での様子を伝えた。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	施設関係者以外の来所に対しての受け入れを行っている。また地域行事への参加や施設行事に参加していただく等、馴染みのある方との交流を支援している。今年は不十分ではあるが、感染状況をみながら自宅周辺のドライブや地元のお店での買い物等を継続している。	「気軽に訪問できる事業所作り」「地域との絆」を大事にし以前は地域行事や施設行事等で交流をしていたが、現在はコロナ禍による交流自粛となっている中、買物や季節行事のドライブや10月から玄関で短時間の面会も可能になる等、気持ちに寄り添った支援に努めている。	

自己評価	外部評価	項目( A棟 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	日々の生活や行事・外出を通して交流を持ち、仲間としての意識や関わりが持てるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約終了後も退所後の受け入れ先の相談や調整を行っている。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日頃の生活において、本人の希望や意向を把握するために関わりを持つことで、本人への理解を深め、本人に合った生活環境が提供できるよう検討している。	職員は利用者とゆっくり話す中で深く関わりを持ち、思いを汲み取って介護計画に反映する等、思いの共有に努めている。編み物が得意な利用者を教師役に編み物教室が出来たり、意思の表出は困難だが暇があれば新聞ちぎりに没頭する利用者の側で片付けを手伝うことで他利用者との関わりが出来た例がある。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人や家族との面談を通して、これまでの生活歴やサービス利用歴の把握をしている。しかし核家族化によって連絡が取りづらい、キーパーソンでも利用者のこれまでの経過を知らない等の現状もあり、情報不足の点もある。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	個人個人の票を作成し、生活面での注意点・趣味・パーソナリティの把握に努め、情報の共有を行っている。		

自己評価	外部評価	項目( A棟 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>職員の意見や、気づきを日々記録し、本人・家族の意向を取り入れて介護計画を作成している。</p>	<p>介護計画原案を適宜担当者会議で検討し、電話連絡等で家族の同意を得て本案としている。職員が毎日の実施状況を記録し、計画作成担当者が3ヶ月を基本にモニタリング・計画を見直している。食の楽しみ作りとしてファストフードが好きな利用者の外食支援に向け立案中である。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>毎日個々の生活状況を記録している。ケアプランに則したチェック項目を設け、実践の確認をしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>地域行事に参加したり、地域の方との交流会を持ち、利用者が生き生きと暮らせる支援をしている。ユニットごとで、より個別化したケアにも取り組んでいる。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>利用者・家族の希望を重視し、適切な医療機関に受診していただけるよう支援している。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>利用者の状態を確認し、報告している。服薬や日々の健康管理に気を配り連携を図っている。</p>	<p>利用前の主治医の受診継続が殆どであり、併設介護老人福祉施設の嘱託医が地元で開業していることもあり、嘱託医を主治医にすることもある。協力歯科から月2回の訪問診療や受診もある。専門医の受診も主に家族の協力を得ながら行なわれ、非常勤兼務の看護師の配置もある。</p>	

自己評価	外部評価	項目( A棟 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>利用者の状態を確認し、報告している。服薬や日々の健康管理に気を配り連携を図っている。夜間の待機看護師が夕方様子を聞きに来ることで、細かい伝達ができるようになった。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>随時、病院関係者と連携を行っている。利用者が入院時は、認知症のBPSDについてなど担当看護師に細かく伝達するよう努めている。退院調整や退院前カンファレンスなどは相談員を中心に行っている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>主治医の指示のもと、本人・家族・職員と話し合いを行っている。</p>	<p>利用開始時、事業所として基本的な方針を説明し了解を得ている。原則看取りは行わず、重度化した際には関係者で話し合いを行い、できる範囲で適切な支援を行う考えである。予め介護老人福祉施設への申し込みの検討を依頼したり、入院により十分な医療支援体制に取り組む方針である。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>日頃から医務室との連携を図り、定期的な救急講習を受けている。救急マニュアルにも目を通し、職員の意識づけを行っている。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>年2回防災訓練を実施している。例年は地域の自主防災訓練にも参加していたが、今年はコロナの影響で参加出来ていない。</p>	<p>夜間想定を含め年2回、併設他事業所と合同で防災訓練を実施している。職員が地域振興会会長を兼ねており、地域の防災訓練に参加したり、防災協定も締結している。先の8月豪雨では施設の2階に避難した経緯もあり、備蓄については施設の管理栄養士により最低3日分の備蓄管理がある。</p>	



自己評価	外部評価	項目( A棟 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	個人の人格や誇り、プライバシーに関して損なわれることがないよう配慮し、記録の取り扱いについても慎重に行っている。	研修で職員の幅広い知識の習得と資質向上を図る体制もある。尊厳に配慮してケアに関わり、利用者への言葉かけも不適切な対応には指導や気づきを促すが、職員間で話しやすい雰囲気もある。利用者・職員間の地縁の濃さと距離感の取り方等も含め、毎月の虐待防止委員会等で検証している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	利用者自らが行動し、意思決定できるような支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一人ひとりのペースに合わせた暮らしが送れるよう、その人らしい生活の支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	本人らしさやその人の好みのおしゃれをできるだけ自分で選んでいただく、決めていただくということを大切に、支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食の好みについては利用者に栄養士が嗜好調査を行っている。食事の配膳や後片付けはお手伝いいただきながら、関わっている。その他、利用者の咀嚼や嚥下状態に合わせて、食形態を見直し、安全においしく食べられるよう配慮している。	食事は施設内の厨房で作られ、利用者は配膳等役割に応じ職員と行っている。年2回栄養士が嗜好調査を行い献立に反映させている。菜園から採れた野菜が食卓に上がったり、よもぎ餅等のおやつ作りや料理のテイクアウト等、楽しみとなる工夫もある。	

自己評価	外部評価	項目( A棟 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<b>○栄養摂取や水分確保の支援</b>  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事形態は個人にあったものを提供することで、栄養面だけでなく食事量の確保に努めている。水分摂取もこまめに提供することで摂取量の確保に努めている。		
42		<b>○口腔内の清潔保持</b>  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、一人ひとり口腔ケアの声掛け、促しを行い実施している。自分で口腔ケアが困難な方には職員が介助を行っている。		
43	16	<b>○排泄の自立支援</b>  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	日中、夜間とその方に合わせてトイレ誘導を行い、リハビリパンツ・尿取りパッドへの失敗、皮膚トラブルの軽減に努めている。またトイレ誘導時には蒸しタオルでの清拭を行い、気持ちよく排泄していただけるよう心掛けている。	排泄パターンを把握しトイレ誘導を基本としている。退院時の紙おむつから紙パンツへの移行例等、状態像に合わせて自立支援を行っている。排泄後に蒸しタオルで拭いて快適さを大事にしている。夜間排泄時の転倒防止の為、センサーマットを設置する時もある。	
44		<b>○便秘の予防と対応</b>  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	日々、ラジオ体操やリハビリ体操、運動を兼ねて施設敷地内の散歩を行っている。こまめに水分を提供することで、一度にたくさん飲めない方にも、水分摂取いただけるよう気をつけている。		
45	17	<b>○入浴を楽しむことができる支援</b>  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	一人ひとりの体調や気持ちを尊重し、部署の生活支援に沿って、入浴していただいている。行事があれば調整しているが、どちらも楽しんでいただけるよう努めている。	週2回の入浴が基本だが、ユニット毎の日課に応じ入浴と行事が楽しめる時間帯で調整している。利用者の体調や入浴習慣に合わせて好みの湯温や時間等、柔軟に対応している。利用者の体の負担を考慮し、シャワー浴や足浴で対応したり、職員差し入れの柚子で作る冬至の柚子湯も行っている。	

自己評価	外部評価	項 目( A棟 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。</p>	<p>利用者の生活リズムをある程度把握し、尊重している。散歩や体操等で心地よい疲労感を感じていただけるよう配慮している。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>個人の服薬ファイルを作成し、職員全員が目を通すことで意識を高め、服薬に対する認識をきちんと持つよう努めている。状態に応じて職員間で話し合い、必要に応じて医師・看護師に指示を仰いでいる。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。</p>	<p>一人ひとりの能力や今までの生活歴等を参考にしながら役割を見つけ、楽しみながら生活できるよう支援している。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>事業所の裏庭には季節に合わせた野菜や花作りができるよう整備し、一緒に取り組んでいる。また、コロナで機会は減っているが地域行事の際には地域住民へのボランティアの呼び掛け等、地域の中の事業所として理解をいただき交流の場となっている。ご家族との外出についても、協力を仰いでいる。</p>	<p>コロナ禍で外出は当面の間自粛をしているが天候が良ければ敷地内の散歩や季節行事としてお花見ドライブ等を行っている。又裏庭の菜園で野菜・花作りを楽しむ等、外気に触れる支援も行っている。ドライブは他部署の協力もあり、各ユニット月2回で全員参加可能となっている。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	<p>本人や家族の希望に添えるよう、あまり高額にならない範囲での支援を行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目( A棟 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	本人や家族の希望に合わせ、支援を行っている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共用空間は1日に3回活動できる利用者とともに清掃・換気を行い、清潔を保つようにしている。ホールには行事の写真や、製作活動での作品を飾る等している。ソファの設置や空調・照明の調整で利用者の安らげる場所作りを心掛けている。	リビングの天窓からは十分な採光が得られ梁の柱が作る高い吹き抜けは開放感がある。天窓からの日差しは日除け布で調光している。花壇の花や行事の飾り付けで季節が感じられ、花紙を丸めて作った利用者の壁画作品等で寛ぎの空間になっている。奥の仏壇で朝のお勤めをする方もある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	食事や談話、テレビを楽しむスペース等を設けている。ホール内は自由に活動できるようにし、利用者同士で思い思いに過ごせる場の提供に努めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室は本人や、家族と相談しながら、自宅等で使用されていた馴染みのものを持ち込んでいただき、本人が安心して過ごせる居心地の良い部屋となるよう工夫・協力している。	居室にはベッド・クローゼット・洗面台等が備え付けられ、仏壇・テレビ等、使い慣れた物や家族写真・ソファ等、好みの物を持ち込み居心地よく過ごせる様にしている。又、利用者によっては夜間排泄時の転倒防止のためポータブルトイレやセンサーマットを設置する時もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	生活上の注意点、趣味などを知り、職員間で情報共有し、サービス向上に努めている。		

V アウトカム項目( A棟 ) ← 左記( )内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目( B棟 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	事業所の理念、部署目標に基づき利用者処遇や職員のケアに対する意識統一を図る。またミーティングや申し送り時に必ず確認するようにしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	これまでは地域とのつながりとして、施設主導の祭りの開催や地域の祭りへの参加があったが、今年もコロナの影響で中止となっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	コロナの影響により運営推進会議が中止となっていたが、今後開催を予定しており、これまで同様に地域の方にも参加していただき情報共有を継続する。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	年4回開催している。 今年度はコロナの影響で書面をもっての報告となっている。事業報告や検討内容と合わせて、日々の様子や取り組み等も公開している。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	行政担当者とは運営推進会議や書面での報告にて事業所の実績やサービスの取り組み等、定期的に情報交換を行い、連携や質の向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目( B棟 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束・玄関の施錠は行っていない。</p>		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>定期的に施設内で法定研修が開催されることで、普段から職員が虐待について勉強し、個々の意識を高め、利用者が安心して生活できるよう心掛けている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>地域権利擁護事業や成年後見人制度について外部研修で学ぶ機会があり、研修資料等は閲覧できるようファイルしてある。また、必要な場合には支援できる体制にある。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>入退所時に面接や調査を行い、説明・納得の上、同意を得ている。また、サービスの内容の変更点(加算等)は運営推進会議の場でも説明を行っている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>運営推進会議や家族会の開催が難しい時期ではあったが、ケアプランの意向確認や面会の時に話を伺ったりしている。また、要望や苦情受付の連絡先を掲示している。</p>		



自己評価	外部評価	項目( B棟 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員面談等、定期的に意見を聞く機会を設けており、その機会以外でも随時対応している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	年2回の業務評価において面接を行い、職員個々の意見を聞く機会を設けている。その中で個人目標を設定し、各自の意欲向上を図るとともに意見交換を行っている。その他、法人全体としてノーリフティングケアを推奨し、腰痛予防に努める等、職員が働きやすい環境を目指している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員一人ひとりの能力を把握し、スキルアップできるよう、法人内外への研修参加の機会を設けている。新人職員についてはOJTによる育成も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	関連事業所と研修会や交換実習等を通して、交流や意見交換をし、業務改善に努めている。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	利用開始前に本人と家族、職員を含めた事前面接を行い、要望や不安な点を聞く機会を設けている。利用開始後も本人の訴えに応じて傾聴し、思いを汲み取り納得していただけるよう心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目( B棟 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	利用開始前の事前面接で、本人・家族と話し合いの場を設けることで不安が取り除けるよう努めている。利用開始後も運営推進会議や家族会を通し、話を聞き思いを知る努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	専門職が連携を取りながら、本人や家族と情報交換を行い、本人の希望に添えるよう努力している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	毎日の生活において、本人の生活歴を通して個人個人に合った役割や得意な分野を見出すことでそれぞれの思いが尊重できるよう心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	運営推進会議や家族会を定期的に開催することで、利用者の近況報告を行っている。外出等に関しては家族の理解を得ながら関係を保っている。コロナの影響で家族を施設に招くことが困難だった今年は、電話での近況報告と合わせて写真入りのハガキを送付し、施設での様子を伝えた。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	施設関係者以外の来所に対しての受け入れを行っている。また地域の行事への参加や施設の行事に参加していただく等、馴染みのある方との交流を支援している。今年は不十分ではあるが、感染状況をみながら自宅周辺のドライブや地元のお店での買い物等を継続している。		

自己評価	外部評価	項目( B棟 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。</p>	<p>日々の生活や行事・外出を通して交流を持ち、仲間としての意識や関わりが持てるよう支援している。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。</p>	<p>契約終了後も退所後の受け入れ先の相談や調整を行っている。</p>		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>日頃の生活において、本人の希望や意向を把握するために関わりを持つことで、本人への理解を深め、本人に合った生活環境が提供できるよう検討している。</p>		
24		<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。</p>	<p>本人や家族との面談を通して、これまでの生活歴やサービス利用歴の把握をしている。しかし核家族化によって連絡が取りづらいため、キーパーソンでも利用者のこれまでの経過を知らない等の現状もあり、情報不足の点もある。</p>		
25		<p>○暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。</p>	<p>個人個人の票を作成し、生活面での注意点・趣味・パーソナリティの把握に努め、情報の共有を行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目( B棟 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<b>○チームでつくる介護計画とモニタリング</b> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	職員の意見や、気づきを日々記録し、本人・家族の意向を取り入れて介護計画を作成している。		
27		<b>○個別の記録と実践への反映</b> 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	毎日個々の生活状況を記録している。ケアプランに則したチェック項目を設け、実践の確認をしている。		
28		<b>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</b> 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	地域行事に参加したり、地域の方との交流会を持ち、利用者が生き生きと暮らせる支援している。ユニットごとで、より個別化したケアにも取り組んでいる。		
29		<b>○地域資源との協働</b> 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	利用者・家族の希望を重視し、適切な医療機関に受診していただけるよう支援している。		
30	11	<b>○かかりつけ医の受診支援</b> 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	利用者の状態を確認し、報告している。服薬や日々の健康管理に気を配り連携を図っている。		

自己評価	外部評価	項目( B棟 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<b>○看護職員との協働</b> 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	利用者の状態を確認し、報告している。 服薬や日々の健康管理に気を配り連携を図っている。 夜間の待機看護師が夕方様子を聞きに来ることで、細かい伝達ができるようになった。		
32		<b>○入退院時の医療機関との協働</b> 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	随時、病院関係者と連携を行っている。利用者が入院される時は、認知症のBPSDについてなど担当看護師に細かく伝達するよう努めている。 退院調整や退院前カンファレンスなどは相談員を中心に行っている。		
33	12	<b>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</b> 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	主治医の指示のもと、本人・家族・職員と話し合いを行っている。		
34		<b>○急変や事故発生時の備え</b> 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	日頃から医務室との連携を図り、定期的な救急講習を受けている。 救急マニュアルにも目を通し、職員の意識づけを行っている。		
35	13	<b>○災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回防災訓練を実施している。例年は地域の自主防災訓練にも参加していたが、今年はコロナの影響で参加出来ていない。		

自己評価	外部評価	項目( B棟 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	個人の人格や誇り、プライバシーに関して損なわれることがないよう配慮し、記録の取り扱いについても慎重に行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	利用者自らが行動し、意思決定できるような支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一人ひとりのペースに合わせた暮らしが送れるよう、その人らしい生活の支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	本人らしさやその人の好みのおしゃれをできるだけ自分で選んでいただく、決めていただくということを大切に、支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食の好みについては利用者に栄養士が嗜好調査を行っている。 食事の配膳や後片付けはお手伝いいただきながら、関わっている。その他、利用者の咀嚼や嚥下状態に合わせて、食形態を見直し、安全においしく食べられるよう配慮している。		

自己評価	外部評価	項目( B棟 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>食事形態は個人にあったものを提供することで、栄養面だけでなく食事量の確保に努めている。水分摂取もこまめに提供することで摂取量の確保に努めている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>毎食後、一人ひとり口腔ケアの声掛け、促しを行い実施している。自分で口腔ケアが困難な方には職員が介助を行っている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>日中、夜間とその方に合わせたトイレ誘導を行い、リハビリパンツ・尿取りパッドへの失敗、皮膚トラブルの軽減に努めている。またトイレ誘導時には蒸しタオルでの清拭を行い、気持ちよく排泄していただけるよう心掛けている。</p>		
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>日々、ラジオ体操やリハビリ体操、運動を兼ねて施設敷地内の散歩を行っている。こまめに水分を提供することで、一度にたくさん飲めない方にも、水分摂取いただけるよう気をつけている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>一人ひとりの体調や気持ちを尊重し、部署の生活支援に沿って、入浴していただいている。行事があれば調整しているが、どちらも楽しんでいただけるよう努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目( B棟 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。</p>	<p>利用者の生活リズムをある程度把握し、尊重している。散歩や体操等で心地よい疲労感を感じていただけるよう配慮している。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>個人の服薬ファイルを作成し、職員全員が目を通すことで意識を高め、服薬に対する認識をきちんと持つよう努めている。状態に応じて職員間で話し合い、必要に応じて医師・看護師に指示を仰いでいる。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。</p>	<p>一人ひとりの能力や今までの生活歴等を参考にしながら役割を見つけ、楽しみながら生活できるよう支援している。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>事業所の裏庭には季節に合わせた野菜や花作りができるよう整備し、一緒に取り組んでいる。また、コロナで機会は減っているが地域行事の際には地域住民へのボランティアの呼び掛け等、地域の中の事業所として理解をいただき交流の場となっている。家族との外出についても、協力を仰いでいる。</p>		
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	<p>本人や家族の希望に添って、あまり高額にならない範囲での支援を行っている。</p>		



自己評価	外部評価	項目( B棟 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	本人や家族の希望に合わせて支援を行っている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共用空間は1日に3回活動できる利用者とともに清掃・換気を行い、清潔を保つようにしている。ホールには行事の写真や、製作活動での作品を飾る等している。ソファの設置や空調・照明の調整で利用者の安らげる場所作りを心掛けている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	食事や談話、テレビを楽しむスペース等を設けている。ホール内は自由に活動できるようにし、利用者同士で思い思いに過ごせる場の提供に努めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室は本人や、家族と相談しながら、自宅等で使用されていた馴染みのものを持ち込んでいただき、本人が安心して過ごせる居心地の良い部屋となるよう工夫・協力している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	生活上の注意点、趣味などを知り、職員間で情報共有し、サービス向上に努めている。		

V アウトカム項目( B棟 ) ← 左記( )内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム甲田

作成日 令和4年1月10日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	36	土地柄、入所者と職員との昔からの繋がりが深い方々もあり、言葉づかいや接遇に配慮が欠けることがある。	入所者と職員、サービスを受ける側と提供する側ということを念頭に日々接すること。	認知症ケアとしてユマニチュードを導入する。ケア方法を学び、実践していくなかで、利用者のみならず、職員間でも尊厳を尊重した接し方をしていく。狎れ合いにならないように、職員間で声掛けをしていく。声掛けしやすい雰囲気の職場にしていく。	1年
2	6	身体拘束を行っていないが、施設の委員会内で報告のみで議事録にその旨の記録がない。	委員会議事録に、身体拘束なしと明記する。	委員会議事録に、身体拘束なしと明記する。	即時
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。